

にしむろアグリ情報



■スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの取組

和歌山県では、農業産出額のうちミカンとウメは約4割を占める重要な品目ですが、農業者の高齢化や減少が進む中で、意欲ある担い手農家へ農地を集積し、規模拡大による経営の安定を図ることが産地の維持において大きな課題となっています。西牟婁地域ではウメ専作またはウメとミカンの複合経営が多く、作業時期の重複による労働力不足の解消と省力化、軽労化が求められています。

そこで、県ではICT（情報通信技術）やロボットなどの技術を農業に取り入れる「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の事業採択を農林水産省から受けて、昨年4月から2年間、みなべ町及び上富田町のウメ、ミカンの園地で現地実証を行っています。



現地実証
農薬散布用ドローンの説明



自走式運搬車



パワーアシストスーツ



自走式草刈機

西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課

〒646-8580 和歌山県田辺市朝日ヶ丘23-1

TEL：0739-26-7941（栽培技術・経営相談、新規就農支援、食育推進など）

TEL：0739-22-1443（補助事業、鳥獣害対策・狩猟、農地貸借、農家民泊、養蜂など）

FAX：0739-26-7945

URL：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130600/130651/index/index.html>

※ 「にしむろアグリ情報」に関するお問い合わせは、上記電話番号へお願いします。

これまでに下記のとおり現地実証を行いました。

R1年月日	スマート農機	品目	実証内容
7月 8日	自走式運搬車	ウメ	収穫物の運搬（試運転）
7月 9日	パワーアシストスーツ	ウメ	漬け込み作業の軽労化（試着）
8月 19日	農薬散布用ドローン	ミカン	農薬散布の省力化（デモ飛行）
	自走式草刈機	ミカン	除草作業の省力化（試運転）
9月 26日	自走式運搬車	ミカン	収穫物の運搬
11月 12日	自走式草刈機	ミカン	除草作業の省力化
	農薬散布用ドローン	ミカン	農薬散布の省力化
	自動かん水装置	ミカン	遠隔操作による省力化（試運転）

現地実証では、実証事業チーム（農研機構、県、JA、生産者）によりスマート農機による作業時間の計測（慣行農機と比較）、作業性や改良点、作業者の疲労度などを調査しています。今後、現地実証を継続するとともに、スマート農機の導入に向けた経営判断材料とするためのデータ収集を行っています。また、3月上旬頃に生産者を対象に、上富田町内のミカン園でスマート農機の実演会を開催する予定ですので、興味のある方は農業水産振興課にお問い合わせ下さい。



農薬散布用ドローンによるデモ飛行

■レタス栽培実証園を設置

レタスの加工・業務用需要が大きく伸びる中で、田辺・西牟婁管内で業務用レタスの取り組みが行われています。

これまでJA等で生産安定に向け、品種比較による特性調査が行われていますが、業務用レタスに求められる大玉生産に適した栽植密度を検討するため、昨年度からすさみ町に、3条植え（慣行栽培）と2条植えで品質や収量性について比較、調査をしています。



レタス栽培実証園（すさみ町）

■ヨモギ栽培実証園の収穫調査結果

山間地域で耕作放棄地が増加する中、身近で手軽に栽培できる作物としてヨモギに着目し、平成30年3月にすさみ町太間川に2aの栽培実証園を設置しました。

収穫は4-5月、6月の2回、新芽の柔らかい部分10cm程度を鎌で刈り取りました。収量は10aあたり233kgありました。この経過や実績については、西牟婁管内で開催される会議や研修会等を通じて報告していく予定です。



ヨモギ栽培実証園（すさみ町）

■新害虫(クビアカツヤカミキリ、ツマジロクサヨトウ)

クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)は繁殖力が強く、幼虫は主にサクラ、モモ、ウメ、スモモなどバラ科の樹木を食害するため、早期発見及び防除対策が重要です。国内ではこれまでに8都府県で被害が認められ、県内では昨年11月にかつらぎ町のモモ生産園地で被害が確認されました。

本虫と疑われる成虫やフラス(木くずと幼虫の糞の混合物)を発見した場合は、農業水産振興課又はJAにご連絡下さい。



クビアカツヤカミキリ成虫(左)とフラス(右)

ツマジロクサヨトウは極めて広食性で、イネ科(トウモロコシ、イネ、サトウキビ)、豆類、いも類、野菜類など80種以上の作物に被害を与えます。西牟婁振興局では病虫害防除所と連携し、発生状況調査やフェロモントラップによる調査を実施しています。

本虫と疑われる幼虫を発見した場合は、農業水産振興課又はJAにご連絡下さい。



ツマジロクサヨトウ幼虫
(植物防疫所原図)

■農業経営を発展させたい方へ～農業経営発展サポート事業の紹介～

6次産業化、法人化、販路拡大などの様々な課題に対応するため、農業者の皆さんの相談ニーズに応じた「専門アドバイザー」を無料で派遣します。(支援期間は最長3年間)

こんな時にご活用ください!

- ◎新たな加工品開発など6次産業化に取り組みたい。
- ◎法人化により規模拡大や信用力強化を目指したい。
- ◎雇用したいが就業規則や社会保険が分からない。 など

本事業の活用事例

濱野さんは本事業を活用し、雇用確保等を目的に法人化し、昨年10月に「株式会社四つ葉農園」を立ち上げられました。



濱野孝人さん(田辺市中三栖)

詳しくは、農業水産振興課にお問い合わせ下さい。

■ジビエの食育事業

ジビエの普及と地産地消の推進に向けて、田辺市上芳養出身のフレンチシェフ 更井亮介氏を講師に招き、今年度は白浜町立小学校2校でシカ肉入りの焼きそばを児童と一緒に作りました。児童からは「シカ肉は少し硬かったが、臭みもなくおいしかった」などの感想が上がりました。

今後もジビエの普及や食育推進活動を行っていきます。



児童たちと調理する更井氏

受賞者の紹介

■原 和男氏（田辺市上秋津）

令和元年秋の褒章 黄綬褒章受章



柑橘栽培において、労力分散を考慮した少量多品目による周年出荷体制の構築に取り組み、地域における柑橘類と梅による複合経営の先駆的なモデルとなっています。

また、地域づくりを推進するため、町内会や農業生産組織をはじめとする団体に広く呼びかけ、「秋津野塾」の立ち上げと運営に取り組みられるとともに、都市と農村の交流を実践する「秋津野ガルテン」のオープンに携わるなど、地域農業の振興に尽力されました。

■高垣 せり氏（田辺市上秋津）

令和元年度和歌山県農林水産業賞受賞



梅、みかんを中心とした複合経営を行い、省力化や労力分散を図るため、スプリンクラーの設置や青梅生産比率を高めるなど、経営の効率化を進め、その取り組みは地域農業の模範となっています。

また、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会長のほか女性組織活動の要職に就き、女性農業者のリーダーとなって田辺・西牟婁地方の農業振興に貢献されました。

■農地を貸したい方・借りたい方を募集

県農業公社が、リタイアする農家などから農地を借り受け、規模拡大農家や新規就農者などへ農地の貸付を実施しています（農地中間管理事業）。

詳しくは、お近くのJA各支所、市町、振興局の窓口担当までお問い合わせ下さい。

※事業の詳しい内容については、和歌山県農業公社のホームページでもご覧いただけます。

【和歌山県農業公社 <http://www.w-apc.or.jp/>】

